

特養高齢者101人 命救う

総社 床上浸水で孤立

総社市日羽の特別養護老人ホーム「さくばらホーム」が西日本豪雨による浸水被害で孤立し、介護度の高い入所者101人が一時、命の危機にさらされた。濁流は床上に達し、入所者は水位下がった安堵もつかの間、猛暑との闘いが始まった。窮地を救ったのは高齢者施設、病院などホームのSOSに応えた県内24施設の「連携プレー」だった。

近くを流れる高梁川 振り返る。

水があふれ、鉄筋1 夕方、水がよやく引部2階のホームに濁流いた頃になると、次は猛雨が迫ったのは、県内に暑による熱中症が危ぶま大雨特別警報が発令された。ライフラインが途切れた6日だ。水位は7 絶え、空調は使えない。日午前0時すぎ、1階 入所者は大半が要介護た。の床上約40センチ。10 4、5の高齢者。チュー1人が横になるベッドで栄養を胃に送る「胃床面が迫っていた。ころろ」の人も多く、移送れ以上、上がらないでが急がれたが「足」とな同センターは医療の優先度が高い15人を受け入れ「あと1日遅れてい

8日、各方面から車が続々と駆け付け、全入所者の大移送が始まった。同センターは医療の優先度が高い15人を受け入れ「あと1日遅れてい

24施設連携し移送

れば命が危なかった」と外科の山辻知樹部長。

ホームによると、19

81年の開所以来、浸水被害の経験はなかったと

いい、櫻井理事長は「急

な要請にも関わらず、関

係施設の迅速な対応で1

01人の命をつなぐこと

ができた。最多の約20

人を運営施設で受け入れ

た雪舟福祉会(総社市)

の守安伸聡事務長は「24

もの施設が協力した迅速

な移送は、岡山でかつて

例がないのではないかと

今後の災害対応を考える

上でも意義のある連携と

なった」と話す。



床上40センチまで濁流が迫った当時の状況を説明する藤岡理事(右)。県内24施設の連携プレーが入所者の窮地を救った＝総社市日羽、さくばらホーム